



# おもてなしの町は、ハート形 宇治田原町 全域マップ



神社仏閣	施設・自然・史跡	店舗
1 御旅所 …… P23	1 末山・くつわ池自然公園 …… P17	1 みろく …… P19
2 妙楽寺 …… P13	2 山口城址 …… P14	2 早蕨山荘 赤政 …… P19
3 大宮神社 …… P22,23	3 田原小学校 …… P13	3 壺之庄 …… P13,21
4 御栗栖神社 …… P13,23	4 やすらぎの道 …… P22	4 チェリー …… P18
5 三宮神社 …… P23	5 家康伊賀越えの道 …… P14	5 BaVato …… P21
6 禅定寺 …… P11,23	6 宝篋印塔 …… P13	6 JA農産物直売所 宇治茶の郷 …… P20
7 猿丸神社 …… P10,23	7 MARU+JYU …… P16	7 魚定本店 …… P19
8 大道神社 …… P15,23	8 お茶の資料室 (総合文化センター) …… P08,23	8 新立麵館 …… P18
9 長福寺 …… P22	9 JA製茶技術研修工場 …… P22	9 お茶の郷 木谷山 …… P11,21
10 茶宗明神社 …… P09,22,23	10 宇治田原郵便局 …… P09	10 たなか家 宇治田原店 …… P19
11 天神社 …… P22	11 永谷宗円生家 …… P09,22,23	11 高田通泉園 …… P09,21
12 正寿院 …… P11,17,22	12 大滝 …… P23	12 そば処 実り …… P20
13 遍照院 …… P15	13 大福谷 …… P06	13 リンデンバウム …… P18

QRコードを読み  
とれば町のPR動  
画が見られるよ

茶畑

宇治田原町マスコット  
茶ッピー

# 知ればもっと町巡りが楽しくなる! お茶にまつわる今昔

宇治茶の主要産地である宇治田原町。「日本緑茶のふるさと」と呼ばれる町の歴史と今をご紹介します。

## はじまりは大福谷

宇治田原町でお茶の栽培がはじまったのは鎌倉時代。世界文化遺産・高山寺を再興した名僧・明恵上人の弟子によって栽培方法がもたらされたと伝わります。最初に茶の種を植えたのは、霊峰・鷲峰山のふもとの谷あい・大福谷の奥地。栽培に適した環境で育まれた大福谷のお茶は好評を博し、幕府や宮中にも献じられたといわれます。



## 日本緑茶の誕生

現在、全国で日常的に普通に飲まれている緑茶ですが、じつは、宇治田原町の湯屋谷がその発祥地といわれます。江戸時代中頃、湯屋谷で茶業を営む永谷宗円という人物が、15年もの歳月をかけて製法を研究し、色・味・香りに優れたお茶を開発。庶民の飲むお茶が茶色い粗末なものから緑色のおいしいお茶に変わった歴史的転換点です。宗円は江戸に上り、茶商・山本嘉兵衛(のちの山本山)を通じて販売。宗円のお茶は「天下一」という名でたちまち大流行したそうです。この製法は「青製煎茶製法」と呼ばれ、今日の日本緑茶の製法の礎となりました。



## 日本遺産に認定

煎茶の流行以降、湯屋谷の茶産業は大きく発展。細い谷あいにある集落でありながら、茶問屋や茶農家の建物が並び建つ様子を見れば、当時の隆盛が伝わってきます。湯屋谷の奥地にある宗円の出生地では、宗円の生家を復元(P9)。宗円が実際に使用していたといわれる焙炉跡も見ることができます。この生家をはじめ、茶畑や茶問屋、茶農家が混在する湯屋谷の町並みは、「日本遺産(詳細は下記参照)」にも認定されました。



## 町に息づく茶産業

現在も100軒以上の茶農家が良質な茶づくりに力を注ぐお茶の町・宇治田原町。新茶の季節を中心に、茶摘みや茶香服、製茶体験など、お茶のイベントが開催されます。また、お茶を使ったスイーツや料理など、お茶にまつわる様々な魅力を生み出して発信。お茶の町としての誇りを胸に、歴史と文化を継承しています。



## What's 日本遺産 Japan Heritage

地域の歴史的魅力や特色を通じ、日本の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産(Japan Heritage)として文化庁が認定し、国内外へその魅力を発信して地域活性化を目指していくものです。宇治田原町の湯屋谷がストーリーに組み込まれた「日本茶800年の歴史散歩」(京都府)は、平成27年4月に第1号として認定されました。